

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 乙第 2449 号

Successful Treatment of Congestive Heart Failure Due to Severe Aortic Valve Stenosis With Low Dose Tolvaptan in Elderly Patients

(低用量トルバプタンによる治療が奏功した高齢者の重症大動脈弁狭窄症によるうっ血性心不全)

高須 清 (たかす きよし)

博士 (医学)

論文審査結果の要旨

本論文は、高齢急性心不全患者における、低用量トルバプタンの安全性と有効性について述べた臨床的意義のある論文である。

心不全を合併した重症大動脈弁狭窄症は、その血行動態の不安定性から安全かつ有効な治療が確立されておらず、極めて予後が悪い病態である。近年、低侵襲である経カテーテル的大動脈弁移植術が可能となり、併存疾患や高齢のため従来手術適応外とされた症例にも適応が拡大されるようになり、bridge 治療としての薬物療法の必要性が増している。V2 受容体拮抗薬であるトルバプタンは、強力な水利尿作用を有し、尿量を増加しながらも心房心室充満圧の変化が軽度であるという特徴を有する。

本研究は、トルバプタンが重症大動脈弁狭窄症患者において、血行動態の不安定化をきたすことなく、急性非代償性心不全を改善する可能性について検討した後ろ向き観察研究である。

2014 年 4 月から 2015 年 11 月まで順天堂医院に入院した重症大動脈弁狭窄症による 80 歳以上の非代償性うっ血性心不全患者連続 14 症例のうち、7 例がトルバプタンによる治療を受けていた。平均年齢は 90.0 ± 6.3 歳、平均大動脈弁弁口面積は 0.57 ± 0.22 cm^2 であった。トルバプタン投与群は、血清クレアチニン、尿素窒素、推定糸球体濾過量の変化を認めず、ループ利尿薬と異なり、腎血行動態の安定化が得られた。

以上の結果から、低用量のトルバプタンは高齢者の重症大動脈弁狭窄症患者に対しては有効かつ安全である可能性が示唆された。今後、更なる前向きの研究が必要である。

よって、本論文は博士 (医学) の学位を授与するに値するものと判定した。